

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC33)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年10月31日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
浜益 (5.5)	10/16	0	15.8	32.13	0	0	0	0	0	
		10	16.8	33.1	0	0	0	10	0	
		20	17	33.19	0	0	0	0	0	
		30	17.4	33.41	0	0	0	0	0	
能取湖 (8.6)	10/24	0	11.3	32.11	0	0	0	110	50	Di50
		10	12.8	33.05	0	0	10	220	20	Di20

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タムタム/アレキサンドリウム・ミニタム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は浜益でデイノフィシス・アキュミナータ、
能取湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・インファンディブラが
出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC32)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年10月24日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差 -	10/16	0	20.5	33.51	0	0	0	0	0	
		10	19.7	33.48	0	0	0	0	0	
		20	19.5	33.46	0	0	0	0	0	
		30	19	33.54	0	0	0	0	0	
常呂 (8.0)	10/17	0	14.8	32.92	0	0	0	40	40	Dro30,Dm10
		10	14.3	33.26	0	0	0	30	20	Dro10,Di10
		20	14.1	33.35	0	0	10	60	40	Dro10,Di30
		30	13.9	33.45	0	0	0	10	80	Dro40,Di40
標津 (8.0)	10/17	0	16.8	33.52	0	0	0	0	0	
		5	16.8	33.53	0	0	0	0	0	
		10	16.8	33.53	0	0	0	0	10	Dru10
		15	16.8	33.53	0	0	0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は常呂でデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、
デイノフィシス・インファンディブラ、デイノフィシス・ミトラ、
標津ではデイノフィシス・ルジエイが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC31)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年10月17日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
猿払 -	10/8	0	19.3	33.1	0	0	0	0	0	
		10	19.2	33.12	0	0	0	0	0	
		15	19.1	33.15	0	0	0	0	0	
		20	19.1	33.16	0	0	0	0	0	
サロマ湖 (8.5)	10/14	0	15.5	33.17	0	0	0	50	50	Dro10,Di40
		3	15.5	33.18	0	0	0	50	30	Di30
		6	15.5	33.18	0	0	0	40	20	Di20
		9	15.5	33.19	0	0	0	20	10	Di10
		12	15.5	33.19	0	0	0	10	0	
		15	15.5	33.19	0	0	0	0	10	Di10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudataデイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種はサロマ湖でデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、
デイノフィシス・インファンディブラが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC30)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年10月10日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
浜益 (3.5)	9/29	0	20.6	28.64	0	0	0	0	0	
		10	21.4	33.24	0	0	0	0	0	
		20	21.5	33.51	0	0	0	0	0	
		30	21.1	33.57	0	0	0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タムータム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudataデイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は出現していません。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC29)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年10月6日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc	その他	Df	Da	D属の他種	
					細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
厚岸 (4.0)	10/1	0	17.5	32.73	0	0	0	10	10	Dro10
		5	17.5	32.75	0	0	0	10	10	Di10
		10	16.7	33.22	0	0	0	0	20	Di20
		13	16.1	33.4	0	0	0	10	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タムータム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は厚岸ではデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・インファンディブラが
出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC28)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年10月3日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (°C)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差 -	9/16	0	23.7	33.44	0	0	0	0	0	
		10	23.4	33.47	0	0	0	0	0	
		20	22.7	33.6	0	0	0	0	0	
		30	21.5	33.76	0	0	0	0	0	
増毛 (15.0)	9/24	0	21.8	33.25	0	0	0	0	0	
		10	21.8	33.28	0	0	0	0	0	
		20	21.9	33.3	0	0	0	0	0	
		30	17	34.04	0	0	0	0	0	
能取湖 (6.8)	9/19	0	21	33.34	0	0	0	10	10	Di10
		10	21	33.35	0	0	20	30	30	Dro20,Di10
標津 (11.0)	9/26	0	19.2	33.3	0	0	0	0	10	Dru10
		5	19.2	33.3	0	0	0	0	0	
		10	19.1	33.3	0	0	0	0	10	Dru10
		15	19.1	33.3	0	0	0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンダーリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンダーリウム・タム・タム/アレキサンダーリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルウェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は能取湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ
デイノフィシス・インファンディブラ、
標津ではデイノフィシス・ルジエイが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC27)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年9月19日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
厚岸 (2.0)	9/16	0	20.3	32.65	0	0	0	30	20	Di10,Dm10
		5	19.4	33.08	0	0	60	10	90	Dro30,Di60
		10	18.8	33.24	0	0	10	0	90	Dro10,Di70,Dm10
		13	18	33.36	0	0	10	0	10	Di10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タムータム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)

Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は厚岸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、
デイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・インファンディブラ、デイノフィシス・ミトラが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC26)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年9月12日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (°C)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
猿払 -	9/1	0	22.3	32.86	0	0	0	0	0	
		10	22.3	32.88	0	0	0	0	0	
		15	22.3	32.89	0	0	0	0	0	
		20	22.3	32.89	0	0	0	0	10	Dro10
常呂 (15.0)	9/9	0	22.1	25.72	0	0	0	0	10	Dro10
		10	21.7	33.52	0	0	0	0	0	
		20	21.5	33.55	0	0	0	0	0	
		30	21.5	33.54	0	0	0	10	0	
サロマ湖 (8.0)	9/9	0	22.7	33.14	0	0	0	0	70	Dro60,Dm10
		3	22.7	33.15	0	0	0	0	20	Dro20
		6	22.6	33.19	0	0	0	0	10	Dm10
		9	22.3	33.23	0	0	20	0	80	Dro60,Di20
		12	21.5	33.38	0	0	0	0	40	Dro30,Di10
		15	20.9	33.41	0	0	0	0	20	Dro10,Di10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンダーリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンダーリウム・タムータム/アレキサンダーリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルウェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は猿払ではデイノフィシス・ロツンダータ、
常呂ではデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、
サロマ湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ロツンダータ、
デイノフィシス・インファンディブラ、デイノフィシス・ミトラが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC25)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年9月5日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差 (14.0)	8/22	0	25.4	32.83	0	0	0	0	0	
		10	25.3	33.49	0	0	0	0	0	
		20	23.7	33.64	0	0	0	0	0	
		30	22.6	33.64	0	0	0	0	0	
浜益 (4.0)	8/26	0	24.8	31.87	0	0	0	0	0	
		10	24.9	32.54	0	0	0	10	70	Dro70
		20	24.9	32.91	0	0	0	10	0	
		30	24.5	33.42	0	0	0	0	10	Dro10
枝幸 (14.0)	8/26	0	23.3	33.4	0	0	0	0	0	
		10	22.7	33.48	0	0	0	0	0	
		20	22.2	33.5	0	0	0	0	0	
		30	21.8	33.55	0	0	0	0	30	Dm30
厚岸 (3.0)	9/1	0	19.5	32.99	0	0	70	20	70	Dro70
		5	19.3	33.08	0	0	60	20	110	Dro100,Dm10
		10	18.2	33.32	0	0	0	10	40	Dro40
		13	17.4	33.33	0	0	10	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)

Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルウェンガ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は浜益ではデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、
枝幸ではデイノフィシス・ミトラ、
厚岸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、
デイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・ミトラが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC24)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年9月1日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
紋別 (13.0)	8/19	0	23.4	33.45	0	0	0	0	20	Dro20
		15	22.8	33.56	0	0	0	0	10	Dro10
		25	22.7	33.59	0	0	0	0	0	
		40	22.4	33.61	0	0	0	0	0	
能取湖 (6.3)	8/20	0	23.4	33.37	0	0	0	0	10	Dro10
		10	22.6	33.43	0	0	0	0	20	Dro20

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は紋別・能取湖ではデイノフィシス・ロツンダータが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC23)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年8月22日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
増毛 (17.0)	8/12	0	25.4	33.3	0	0	0	0	0	
		10	24.9	33.29	0	0	0	0	0	
		20	22.1	33.69	0	0	0	0	0	
		30	19.3	33.71	0	0	0	0	0	
猿払 -	8/12	0	24.6	33.22	0	0	0	0	0	
		10	23	33.09	0	0	0	0	0	
		15	22.7	33.09	0	0	0	0	20	Dro20
		20	22.4	32.96	0	0	0	0	10	Dn10
常呂 (13.0)	8/19	0	23.1	23.04	0	0	0	0	0	
		10	23.2	33.52	0	0	0	0	40	Dro40
		20	22.9	33.53	0	0	0	0	80	Dro20,Dm60
		30	20.9	33.68	0	0	0	0	50	Dro20,Dm30
サロマ湖 (6.3)	8/19	0	23.9	33.21	0	0	0	0	0	
		3	23.9	33.23	0	0	10	0	0	
		6	23.9	33.23	0	0	0	0	0	
		9	23.3	33.28	0	0	10	0	20	Dro20
		12	22.1	33.42	0	0	0	0	30	Dro30
		14	21.3	33.38	0	0	0	0	0	
標津 (6.0)	8/18	0	21	33.17	0	0	0	20	40	Dro30,Di10
		5	20.9	33.17	0	0	0	20	0	
		10	18.1	33.38	0	0	40	60	30	Dro30
		15	16.5	33.56	0	0	30	10	10	Di10
厚岸 (4.0)	8/19	0	21.4	32.69	0	0	50	30	20	Dro20
		5	21.1	32.74	0	0	70	100	30	Dro30
		10	17.4	33.17	0	0	20	30	91	Dn80,Di10
		13	17.2	33.2	0	0	0	0	10	Dn10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao= Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は猿払ではデイノフィシス・ノルヴェジカ、デイノフィシス・ロツンダータ、
常呂ではデイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・ミトラ、
サロマ湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ロツンダータ、
標津ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・インファンディブラ、
厚岸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカ、
デイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・インファンディブラが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC22)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年8月15日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (°C)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
網走 (19.0)	8/6	0	23.2	33.5	0	0	0	0	0	
		10	22.8	33.54	0	0	0	0	0	
		20	21.4	33.62	0	0	0	0	0	
		30	20.8	33.65	0	0	0	0	0	
厚岸 (1.5)	8/6	0	22.7	31.66	0	0	0	0	0	
		5	18.3	32.9	1440	10	130	1080	120	Am/t10, Dn50, Dro70
		10	16.2	32.98	90	0	10	200	30	Dn20, Dro10
		13	14.8	33.1	10	0	20	50	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao= Alexandrium ostenferudii (有毒種)

Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ

Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ

Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ

Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは厚岸で出現しています。

下痢性原因種は厚岸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカ、
デイノフィシス・ロツンダータが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC21)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年8月8日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (°C)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
浜益 (6.0)	7/28	0	24.7	30.96	0	0	0	0	0	Dro10
		10	24	32.8	0	0	0	0	0	
		20	22.5	33.52	0	0	0	0	10	
		30	21.4	33.65	0	0	0	0	0	
枝幸 (15.0)	7/29	0	21.4	33.56	0	0	0	0	0	Dro10
		10	21.3	33.56	0	0	0	0	0	
		20	20.8	33.62	0	0	0	0	10	
		30	19.9	33.68	0	0	0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピースース コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao= Alexandrium ostenferudii (有毒種)

Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ

Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ

Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェンガ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ

Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は浜益、枝幸ではデイノフィシス・ロツンダータが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年7月31日

中央水產試驗場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
常呂 (16.0)	7/22	0	20.5	29.09	0	0	0	0	0	
		10	18.7	33.63	0	0	0	0	0	
		20	18.2	33.7	0	0	20	0	10	Dro10
		30	18.2	33.7	0	0	0	0	0	
サロマ湖 (10.7)	7/22	0	24.7	33.28	0	0	0	0	30	Dro20,Di10
		3	21.8	33.42	0	0	0	0	60	Dro60
		6	20	33.53	0	0	10	0	20	Dro20
		9	19.4	33.55	0	0	10	0	0	
		12	18.6	33.57	0	0	170	20	10	Dro10
		14.2	17.4	33.59	0	0	10	10	20	Dro20
能取湖 (9.2)	7/23	0	25.7	33.13	0	0	0	0	0	
		10	19.1	33.48	0	0	10	0	0	
標津 (6.0)	7/7	0	19.1	32.71	0	0	0	0	20	Dro20
		5	14.7	32.83	0	0	10	50	40	Dro10,Di30
		10	12.4	33.21	0	0	10	40	10	Di10
		15	11.6	33.41	0	0	540	30	170	Dn160,Di10
厚岸 (2.5)	7/23	0	20.5	32.18	0	0	0	350	10	Dn10
		5	12.4	33.04	270	0	220	950	300	Dn290,Di10
		10	11.9	33.08	30	0	70	190	40	Dn40
		12	11.9	33.17	30	0	0	50	10	Dn10

Atsc= *Alexandrium tamarense* species complex アレキサンダーリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (*Alexandrium catenella* (Group I)と*Alexandrium pacificum* (Group IV)を含む), Am/t = *Alexandrium minutum*/*Alexandrium tamutum* アレキサンダーリウム・タム・タム/アレキサンダーリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=*Alexandrium ostenferudii* (有毒種)

Df = *Dinophysis fortii* ディノフィシス・フォルティ, Da=*Dinophysis acuminata* ディノフィシス・アキュミナータ

Dro = *Dinophysis rotundata* ティノフィシス・ロツンダータ, Di=*Dinophysis infundibula* ティノフィシス・インファンディブラ

Dm = *Dinophysis mitra* ティノフィニス・ミトラ, Dn=*Dinophysis norvegica* ティノフィニス・ノルウェンシカ, Dru=*Dinophysis rudgei* ティノフィニス・ルジエイ

Dc = *Dinophysis caudata* デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは厚岸で出現しています。

下痢性原因種は常呂ではディノフィシス・フォルティ、ディノフィシス・ロツンダータ、サロマ湖ではディノフィシス・フォルティ、ディノフィシス・アキュミナータ、ディノフィシス・ロツンダータ、ディノフィシス・インファンティブラ、能取湖ではディノフィシス・フォルティ、標津ではディノフィシス・フォルティ、ディノフィシス・アキュミナータ、ディノフィシス・ノルヴェジカ、ディノフィシス・ロツンダータ、ディノフィシス・インファンティブラ、厚岸ではディノフィシス・フォルティ、ディノフィシス・アキュミナータ、ディノフィシス・ノルヴェジカ、ディノフィシス、インファンティブラが出現しています。

(担当: 海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC19)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年7月28日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差 (14.0)	7/11	0	19.7	33.77	0	0	0	0	0	
		10	17.8	33.9	0	0	0	0	0	
		20	14.1	34.09	0	0	0	0	0	
		30	12.7	34.15	0	0	0	0	0	
増毛 (18.0)	7/9	0	22.3	33.03	0	0	0	0	0	
		10	19.9	33.45	0	0	0	0	0	
		20	17.6	33.67	0	0	0	0	0	
		30	16	33.76	0	0	0	0	0	
増毛 (17.0)	7/18	0	22.9	33.25	0	0	0	0	0	
		10	20.9	33.4	0	0	0	0	0	
		20	19.1	33.65	0	0	0	0	0	
		30	16.2	33.74	0	0	0	0	0	
猿払 -	7/16	0	17.8	33.19	0	0	0	0	0	
		10	16.9	33.21	0	0	0	0	0	
		15	16.7	33.08	0	0	0	0	0	
		20	16.2	33.21	0	0	0	0	0	
紋別 (14.0)	7/17	0	17.6	33.67	0	0	0	0	0	
		15	16.9	33.73	0	0	0	0	0	
		25	16.8	33.74	0	0	0	0	0	
		40	16.8	33.74	0	0	0	0	0	
能取湖 (21.0)	7/10	0	22.6	33.38	0	0	0	0	0	
		10	16.5	33.30	0	0	420	0	10	Dn10
網走 (14.0)	7/8	0	16.6	33.75	0	0	0	0	0	
		10	15.3	33.70	0	0	0	0	0	
		20	15.0	33.74	0	0	0	0	0	
		30	14.9	33.74	0	0	0	0	10	Dro10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピースーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao= Alexandrium ostenferudii (有毒種)

Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ

Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ

Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ

Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は能取湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ノルヴェジカ、
網走ではデイノフィシス・ロツンダータが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC18)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年7月14日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (°C)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
猿払 -	7/2	0	15.8	33.14	0	0	0	0	0	
		10	15.8	33.14	0	0	20	0	0	
		15	15.8	33.15	0	0	10	0	0	
		20	15.2	33.22	0	0	20	0	0	
常呂 (21.0)	7/8	0	19.9	26.11	0	0	0	0	0	
		10	16.3	33.65	0	0	0	0	0	
		20	15.8	33.71	0	0	0	0	0	
		30	15.6	33.73	0	0	10	0	0	
サロマ湖 (13.2)	7/8	0	23.5	33.28	0	0	0	0	0	
		3	21.5	32.99	0	0	0	0	0	
		6	18.2	33.31	0	0	0	0	10	Dro10
		9	17.6	33.47	0	0	0	10	0	
		12	17.1	33.41	0	0	20	0	0	
		14	16	33.34	0	0	50	0	0	
厚岸 (3.0)	7/9	0	20.9	32.17	0	0	0	0	0	
		5	12.7	32.59	0	0	240	490	550	Dn540,Dro10
		10	10.0	32.77	320	0	220	170	700	Dn360,Dro20,Dru10,Di10
		13	9.7	32.84	10	0	60	20	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンDRリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンDRリウム・タム・タム/アレキサンDRリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは厚岸で出現しています。

下痢性原因種は猿払、常呂ではデイノフィシス・フォルティ、
サロマ湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、
厚岸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカ、
デイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・ルジエイ、デイノフィシス・インファンディブラが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC17)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年7月4日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差 -	6/26	0	18.2	33.24	0	0	0	0	0	
		10	16.2	33.69	0	0	0	0	0	
		20	14.4	33.83	0	0	0	0	0	
		30	11.7	33.97	0	0	0	0	0	
増毛 (8.0)	6/27	0	20.2	32.42	0	0	0	0	0	
		10	17.7	33.01	0	0	0	0	0	
		20	14.5	33.45	0	0	0	0	0	
		30	12.8	33.72	0	0	0	0	0	
能取湖 (7.0)	6/27	0	21.4	33.07	0	0	0	0	10	Dn10
		10	15.6	33.36	0	0	140	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タムータム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は能取湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ノルヴェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC16)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年6月27日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
浜益 (4.0)	6/19	0	19.4	31.63	0	0	0	0	0	Dro10
		10	15.6	32.87	0	0	30	0	10	
		20	12.7	33.63	0	0	10	0	0	
		30	12.1	33.69	0	0	10	0	0	
常呂 (15.0)	6/23	0	15.1	33.41	10	0	0	0	0	
		10	13.6	33.62	0	0	0	0	0	
		20	13	33.65	0	0	0	0	0	
		30	12.9	33.67	0	0	10	0	0	
サロマ湖 (8.5)	6/23	0	18.2	32.95	0	0	0	0	0	Dro10 Di10
		3	17.4	33	0	0	0	0	0	
		6	15.4	33.16	40	0	10	0	10	
		9	14.5	33.21	30	0	20	0	10	
		12	13.4	33.4	830	0	200	20	0	
		14	13.1	33.36	660	0	30	0	0	
厚岸 (4.0)	6/25	0	13.4	31.86	3286	1404	0	0	0	Am/t1404
		5	9.1	32.48	260	0	160	140	410	Dn410
		10	7.0	32.76	430	0	0	70	60	Dn60
		11	7.0	32.71	80	0	0	40	60	Dn60

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミニータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは常呂、サロマ湖、厚岸で出現しています。

下痢性原因種は浜益ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ロツンダータ、
枝幸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、
常呂ではデイノフィシス・フォルティ、
サロマ湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、デイノフィシス・インファンディブラ、
厚岸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC15)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年6月20日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
増毛 (12.0)	6/9	0	14.2	33.19	0	0	0	0	0	
		10	13.8	33.42	0	0	0	0	0	
		20	13.3	33.6	0	0	0	0	0	
		30	11.8	33.74	0	0	0	0	0	
猿払 －	6/10	0	11.8	33.14	0	0	70	0	10	Dro10
		10	11.7	33.15	0	0	30	0	0	
		15	11.6	33.21	0	0	0	0	0	
		20	11.6	33.22	0	0	10	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴエジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudataデイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。
下痢性原因種は猿払ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ロツンダータが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年6月16日

中央水產試驗場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
紋別 (8.0)	6/3	0	11.2	33.39	0	0	0	0	0	
		15	10.3	33.63	0	0	0	0	0	
		25	10.3	33.63	0	0	20	0	0	
		36	10.3	33.63	0	0	0	0	0	
能取湖 (5.0)	6/9	0	15.2	32.84	0	0	10	20	0	
		10	12.4	33.25	0	0	50	0	0	
標津 (7.0)	6/11	0	11.7	31.79	472	118	90	40	60	Am/t118
		5	7.17	32.2	28	122	40	20	20	Am/t112,Ao10,Dn20
		10	6.84	32.78	0	0	0	0	30	Dn10,Dru10,Di10
		15	6.45	32.9	0	0	0	0	10	Dn10

Atsc= *Alexandrium tamarense* species complex アレキサントリウム タマレンセ スピノーシス コンプレックス (*Alexandrium catenella* (Group I)と*Alexandrium pacificum* (Group IV)を含む), Am/t = *Alexandrium minutum*/*Alexandrium tamutum* アレキサントリウム・タム・タム/アレキサントリウム・ミニユタム(有毒種の可能性)
Ao=*Alexandrium ostenferudii* (有毒種)

Df = *Dinophysis fortii* ティノフィシス・フォルティ, Da = *Dinophysis acuminata* ティノフィシス・アキュミナータ

Dro = *Dinophysis rotundata* デイノフィシス・ロツンダータ, Di=*Dinophysis infundibula* デイノフィシス・インファンディブラ

Dm = *Dinophysis mitra* ティノフィニス・ミトラ, Dn=*Dinophysis norvegica* ティノフィニス・ノルウェンシカ, Dru=*Dinophysis rudgei* ティノフィニス・ルジエイ

Dc = *Dinophysis caudata* デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは標津で出現しています。

下痢性原因種は紋別ではディノフィシス・フォルティ、
能取湖ではディノフィシス・フォルティ、ディノフィシス・アキュミナータ、
標津ではディノフィシス・フォルティ、ディノフィシス・アキュミナータ、ディノフィシス・ノルヴェシカ、
ディノフィシス・ルジエイ、ディノフィシス・インファンディブラが出現しています。

(担当: 海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC13)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年6月13日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
猿払 -	6/3	0	10.9	33.21	0	0	0	0	0	Dro10
		10	10.3	33.32	0	0	20	0	10	
		15	10.1	33.33	0	0	0	0	0	
		20	10.1	33.35	0	0	0	0	0	
枝幸 (12.0)	6/3	0	10.9	33.56	0	0	10	0	0	
		10	10.8	33.58	0	0	0	10	0	
		20	10.7	33.6	0	0	10	0	0	
		30	9.73	33.73	0	0	10	0	0	
常呂 (10.0)	6/9	0	12.8	27.1	0	0	0	0	0	
		10	10.7	33.64	10	0	10	0	0	
		20	10.3	33.74	0	0	20	0	0	
		30	10.1	33.77	0	0	10	0	0	
サロマ湖 (13.0)	6/9	0	14.8	32.79	0	0	0	0	0	
		3	14.5	32.72	10	0	0	0	0	
		6	13.4	32.81	0	0	20	0	10	
		9	12.3	32.92	10	0	50	0	0	
		12	11.2	33.1	75	75	370	0	10	
		14	10.8	33.09	20	20	100	10	0	
網走 (13.0)	6/6	0	11.5	33.09	0	0	20	0	0	
		10	10.4	33.5	0	0	10	0	0	
		20	10.2	33.55	0	0	0	0	0	
		30	10.2	33.55	0	0	10	0	0	
厚岸 (3.0)	6/10	0	13.5	30.41	160	50	10	10	30	Am/t50,Dn30
		5	7.6	32.39	70	30	0	80	30	Am/t30,Dn30
		10	6.0	32.57	40	50	20	720	210	Am/t50,Dn210
		12	5.7	32.72	0	0	10	50	10	Dn10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンDRリウム タマレンセ スピースーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンDRリウム・タム・タム/アレキサンDRリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは常呂、サロマ湖、厚岸で出現しています。

下痢性原因種は猿払ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ロツンダータ、
枝幸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、
常呂、網走ではデイノフィシス・フォルティ、
サロマ湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカ、デイノフィシス・ロツンダータが
厚岸ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC12)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年6月9日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差 (13.0)	5/22	0	12.6	33.77	0	0	0	0	0	
		10	12.1	33.85	0	0	0	0	0	
		20	11.3	33.85	0	0	10	0	0	
		30	9.6	33.95	0	0	0	0	0	
浜益 (8.0)	5/22	0	13.5	31.23	0	0	0	0	0	
		10	11.2	32.63	0	0	0	10	0	
		20	10.8	33.46	0	0	0	0	0	
		30	9.81	33.63	0	0	0	0	0	
増毛 (13.0)	5/23	0	12	32.86	0	0	0	0	0	
		10	11.7	33.13	0	0	10	0	0	
		20	11.8	33.38	0	0	0	0	0	
		30	9.85	33.47	0	0	0	0	0	
猿払 -	5/20	0	9.89	32.99	0	0	10	0	0	
		10	9.66	33.09	0	0	0	0	0	
		15	9.49	33.16	0	0	0	0	0	
		20	9.45	33.18	0	0	0	0	0	
サロマ湖 (8.8)	5/26	0	12.1	32.19	0	10	20	10	20	Aa10
		3	12.1	32.27	0	0	40	0	10	Di10
		6	12.1	32.48	0	0	80	0	10	Di10
		9	11.2	33.02	0	70	170	0	10	Aa70,Di10
		12	9.68	32.76	0	60	40	0	0	Aa30,Ao30
		15	7.94	32.90	0	20	0	0	0	Ao20
能取湖 (9.0)	5/29	0	14.8	32.53	0	0	0	0	0	
		10	11.2	33.14	0	0	0	0	10	Di10
厚岸 (1.5)	5/26	0	10.1	30.47	30	20	0	0	20	Am/t20,Dn20
		5	7.0	32.00	10	40	0	10	50	Am/t40,Dn50
		10	6.0	32.19	0	20	0	10	40	Am/t20,Dn40
		13	5.4	32.31	0	0	0	0	10	Dn10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミニータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは厚岸で出現しています。サロマ湖ではAoが出現しています。

下痢性原因種は江差、増毛、猿払ではデイノフィシス・フォルティ、
浜益ではデイノフィシス・アキュミナータ、
サロマ湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・インファンディブラ、
厚岸ではデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC11)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年5月23日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
猿払 -	5/12	0	9.16	32.64	0	0	40	0	10	Dru10
		10	8.76	32.88	0	0	10	0	10	Di10
		15	8.61	32.97	0	0	60	0	0	
		20	8.61	33	0	0	20	0	0	
網走 (9.0)	5/9	0	8.42	32.64	0	0	0	0	0	
		10	7.08	33.25	0	0	0	10	0	
		20	7.1	33.29	0	0	10	20	10	Di10
		30	7.08	33.3	0	0	0	20	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は猿払ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・ルジエイ、デイノフィシス・インファンディブラ、
網走ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・インファンディブラが
出現しています。

(担当: 海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒プランクトンモニタリング速報(YC10)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年5月16日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (°C)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
増毛 (9.0)	5/8	0	9.85	32.43	0	0	0	0	0	
		10	9.44	33.23	0	0	0	0	0	
		20	9.33	33.42	0	0	0	0	0	
		30	8.67	33.53	0	0	0	0	0	
枝幸 (8.5)	5/8	0	8.85	32.93	0	0	10	0	0	
		10	8.51	33.08	0	0	10	0	0	
		20	8.52	33.13	0	0	90	10	0	
		30	8.46	33.17	0	0	20	10	0	
紋別 (9.0)	5/7	0	7.44	33.29	0	0	10	0	0	
		15	7.32	33.3	0	0	10	10	0	
		25	7.17	33.4	0	0	0	0	0	
		41	7.13	33.42	0	0	0	0	0	
サロマ湖 (6.5)	5/12	0	9.09	31.96	10	10	0	20	10	Am/t10, Drot10
		3	8.96	31.98	20	0	30	0	0	
		6	8.24	32.31	0	0	10	0	10	Di10
		9	8.52	32.34	0	0	0	10	0	
		12	8.15	32.51	10	10	0	10	0	Am/t10
		15	6.72	32.78	0	0	0	0	0	
能取湖 (6.9)	5/8	0	9.4	32.1	0	0	0	10	0	
		10	7.04	32.64	0	0	0	10	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピースーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミニュータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscはサロマ湖に出現しています。

下痢性原因種は枝幸・紋別ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、
サロマ湖ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ロツンダータ、
デイノフィシス・インファンディブラが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC9)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年5月12日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
常呂 (10.0)	5/9	0	8.66	32.28	0	30	0	10	0	Am/t30
		10	7.86	33.4	0	0	30	10	0	
		20	7.53	33.44	0	0	10	40	0	
		30	7.42	33.46	0	10	60	50	0	Am/t10
標津 (9.0)	5/9	0	6.6	31.22	20	0	0	10	0	
		5	5.34	31.49	0	0	0	0	30	Dn20,Dru10
		10	3.71	31.68	0	0	0	0	10	Dn10
		15	2.15	32.03	0	0	0	0	10	Dru10
厚岸 (2.0)	5/8	0	8.14	29.55	0	110	0	0	0	Am/t110
		5	5.25	31.75	0	30	0	0	10	Am/t30, Dn10
		10	3.06	32.33	0	0	0	0	0	
		13	3	32.35	0	0	0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンティブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは標津に出現しています。常呂、厚岸では有毒種の可能性があるAm/tが出現しています。

下痢性原因種は常呂ではデイノフィシス・フォルティ、デイノフィシス・アキュミナータ、
標津ではデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカ、デイノフィシス・ルジエイ、
厚岸ではデイノフィシス・ノルヴェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC8)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年5月9日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
江差 (8.0)	4/23	0	9.15	33.16	0	0	0	0	0	
		10	9.52	33.97	0	0	0	0	0	
		20	9.26	33.97	0	0	0	0	0	
		30	9.12	33.95	0	0	0	0	0	
浜益 (4.0)	4/15	0	8.94	26.89	0	0	0	0	0	Di10
		10	8.1	31.15	0	0	0	0	10	
		20	7.48	33.6	0	0	0	0	0	
		30	7.28	33.65	0	0	0	0	0	
増毛 (11.0)	4/22	0	8.05	31.02	0	0	0	0	0	
		10	8.43	33.52	0	0	20	0	0	
		20	7.9	33.81	0	0	0	0	0	
		30	7.55	33.87	0	0	0	0	0	
能取湖 (3.0)	4/25	0	7.4	31.84	0	0	0	30	0	Dn10
		10	5.99	31.98	0	0	0	40	10	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンタリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンタリウム・タム・タム/アレキサンタリウム・ミヌータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は浜益ではデイノフィシス・インファンディブラ、
増毛ではデイノフィシス・フォルティ、
能取湖ではデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC7)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年4月28日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
猿払 -	4/18	0	6.3	33.35	0	0	0	10	0	
		10	6.3	33.41	0	0	0	10	0	
		15	6.3	33.42	0	0	0	20	0	
		20	6.3	33.43	0	0	0	0	0	
紋別 (15.0)	4/15	0	6.07	33.68	0	0	0	10	0	
		15	6.03	33.69	0	0	0	0	0	
		25	6.03	33.69	0	0	0	10	0	
		42	5.67	33.87	0	0	0	0	0	
サロマ湖 (3.0)	4/23	0	6.63	31.25	0	0	0	60	50	Dn50
		3	6.61	31.25	0	10	0	70	10	Am/t10, Dn10
		6	6.59	31.25	0	0	0	70	0	
		9	6.32	31.48	0	0	0	20	0	
		12	6.11	31.83	0	0	0	0	0	
		15	5.79	31.94	0	0	0	0	0	
厚岸 (3.0)	4/22	0	3.91	31.44	0	0	0	0	0	
		5	3.14	31.67	0	0	0	0	0	
		10	2.18	32.23	0	0	0	0	0	
		13	2.05	32.29	0	10	0	0	0	Am/t10

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), Am/t = Alexandrium minutum/Alexandrium tamutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミニュータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルウェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は猿払、紋別ではデイノフィシス・アキュミナータが、
サロマ湖ではデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルウェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC6)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年4月14日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
網走 (7.0)	4/7	0	0.73	32.02	0	0	0	0	0	
		10	-0.9	32.32	0	0	0	0	0	
		20	-1.1	32.57	0	0	0	0	0	
		30	-1.3	32.78	0	0	0	0	0	
標津 (5.0)	4/11	0	2.08	31.65	0	0	0	0	0	
		5	0.08	31.81	0	0	0	0	0	
		10	-0.2	31.84	0	0	0	0	0	
		15	-0.3	31.84	0	0	0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), At/m = Alexandrium tamutum/Alexandrium minutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミニュータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。
下痢性原因種は出現していません。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC5)
 (日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
 2025年4月11日
 中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc 細胞/L	その他 細胞/L	Df 細胞/L	Da 細胞/L	D属の他種 細胞/L	
増毛 (5.0)	4/3	0	6.9	33.39	0	0	0	0	0	
		10	7.14	33.76	0	0	0	0	0	
		20	7.2	33.81	0	0	0	10	0	
		30	7.23	33.82	0	0	0	0	0	
猿払 -	4/1	0	5.1	32.95	0	0	0	0	0	
		10	5.2	33.19	0	0	0	0	0	
		15	5.21	33.2	0	0	0	0	0	
		20	5.21	33.2	0	0	0	0	0	
サロマ湖 (1.9)	4/9	0	5.24	28.08	0	0	0	0	0	
		3	3.27	31.6	0	0	0	50	30	Dn20,Dro10
		6	2.46	32.03	0	0	0	0	0	
		9	2.27	32.31	0	0	0	0	0	
		12	2.36	32.44	0	0	0	0	0	
		14	2.56	32.65	0	0	0	0	0	
常呂 (7.0)	4/6	0	0.6	25.5	0	0	0	0	0	
		10	1.7	32.8	0	0	0	0	0	
		20	4.3	33.1	0	0	0	10	0	
		30	3.1	33.1	0	0	0	0	0	
能取湖 (4.0)	4/2	0	1.95	31.89	0	0	0	0	0	
		10	1.6	32.1	0	0	0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), At/m = Alexandrium tamutum/Alexandrium minutum アレキサンドリウム・タムタム/アレキサンドリウム・ミニタム(有毒種の可能性)
 Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
 Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
 Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
 Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルウェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
 Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は増毛でデイノフィシス・アキュミナータ、
 サロマ湖でデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルウェジカ、
 常呂でデイノフィシス・アキュミナータが出現しています。

貝毒発生による出荷規制状況の一覧表は、末尾のシートに掲載しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC4)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年4月4日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月 日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc	その他	Df	Da	D属の他種	
					細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
厚岸 (2.0)	4/1	0	2.16	31.47	0		0	0	0	
		5	1.65	31.75	0		0	10	30	Dn30
		10	1.12	32.22	0		0	0	0	
		13	0.96	32.29	0		0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), At/m = Alexandrium tamutum/Alexandrium minutum アレキサンドリウム・タム・タム/アレキサンドリウム・ミニータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルヴェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は厚岸でデイノフィシス・アキュミナータ、デイノフィシス・ノルヴェジカが出現しています。

貝毒発生による出荷規制状況の一覧表は、末尾のシートに掲載しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 品田晃良)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC3)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年3月27日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc	その他	Df	Da	D属の他種	
標津 (4.0)	3/25	0	-0.2	31.64	0		0	0	0	
		5	-1.1	32.75	0		0	20	0	
		10	-1.2	31.78	0		0	0	0	
		15	-1.2	31.78	0		0	10	0	
厚岸 (2.0)	3/10	0	1.1	31.64	0		0	0	10	Dn10
		5	0.89	32.49	0		0	0	0	
		10	0.66	32.57	0		0	0	0	
		13	0.63	32.61	0		0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンドリウム タマレンセ スピースーズ コンプレックス (Alexandrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), At/m = Alexandrium tamutum/Alexandrium minutum アレキサンドリウム・タムタム/アレキサンドリウム・ミニタム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンディブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルウェジカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudata デイノフィシス・コウダータ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は標津でデイノフィシス・アキュミナータ、
厚岸でデイノフィシス・ノルウェジカが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 有馬大地)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC2)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)
2025年2月27日
中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc	その他	Df	Da	D属の他種	
					細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	細胞/L	
標津 (11.0)	2/25	0	-0.3	32.08	0		0	10	0	
		5	-0.3	32.11	0		0	0	0	
		10	-0.3	32.15	0		0	10	0	
		15	-0.3	32.15	0		0	0	0	
厚岸 (5.0)	2/12	0	-0.7	-	0		0	0	0	
		5	0.35	-	0		0	0	0	
		10	0.77	-	0		0	0	0	
		13	0.81	-	0		0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンDRリウム タマレンセ スピーシーズ コンプレックス (Alexadnrrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), At/m = Alexandrium tamutum/Alexandrium minutum アレキサンDRリウム・タムータム/アレキサンDRリウム・ミニュータム(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii デイノフィシス・フォルティ, Da=Dinophysis acuminata デイノフィシス・アキュミナータ
Dro = Dinophysis rotundata デイノフィシス・ロツンダータ, Di=Dinophysis infundibula デイノフィシス・インファンティブラ
Dm = Dinophysis mitra デイノフィシス・ミトラ, Dn=Dinophysis norvegica デイノフィシス・ノルウェンカ, Dru=Dinophysis rudgei デイノフィシス・ルジエイ
Dc = Dinophysis caudataデイノフィシス・コウダータ

コメント
麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は標津でデイノフィシス・アキュミナータが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 有馬大地)

貝毒フランクtonモニタリング速報(YC1)
(日本海～オホーツク海～根室海峡～えりも以東太平洋)

2025年1月17日

中央水産試験場資源管理部

地 点 (透明度m)	月日	深度 (m)	水温 (℃)	塩分 (psu)	麻痺性原因種		下痢性原因種			備考
					Atsc	その他	Df	Da	D属の他種	
標津 (14.0)	1/15	0	2.19	31.97	0		0	20	0	
		5	2.18	31.95	0		0	20	0	
		10	2.18	31.95	0		0	30	0	
		15	2.2	31.95	0		0	0	0	
厚岸 (5.0)	1/14	0	1.41	32.33	0		0	0	0	
		5	1.4	32.34	0		0	10	0	
		10	1.49	32.37	0		0	0	10	Dn10
		13	1.45	32.37	0		0	0	0	

Atsc= Alexandrium tamarense species complex アレキサンﾄﾞリウム タマレンセ スﾍﾞｰｼｰｽﾞ ｺﾝﾌﾟﾚｯｸｽ (Alexadnrium catenella (Group I)とAlexandrium pacificum (Group IV)を含む), At/m = Alexandrium tamutum/Alexandrium minutum アレキサンﾄﾞリウム・ﾀﾑ-ﾀﾑ/アレキサンﾄﾞリウム・ﾐﾆｭｰﾀﾑ(有毒種の可能性)
Ao=Alexandrium ostenferudii (有毒種)
Df = Dinophysis fortii ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ﾌｵﾙﾃｲ, Da=Dinophysis acuminata ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ｱｷﾔﾐﾅｰﾀ
Dro = Dinophysis rotundata ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ﾛｳﾝﾀﾞｰﾀ, Di=Dinophysis infundibula ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ｲﾝﾌｧﾝﾃｲﾌﾞﾗ
Dm = Dinophysis mitra ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ﾐﾄﾗ, Dn=Dinophysis norvegica ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｴｼｶ, Dru=Dinophysis rudgei ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ﾙｼﾞｴ
Dc = Dinophysis caudata ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ｺｳﾀﾞｰﾀ

コメント

麻痺性原因種Atscは出現していません。

下痢性原因種は標津でﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ｱｷﾔﾐﾅｰﾀ、
厚岸でﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ｱｷﾔﾐﾅｰﾀ、ﾃｲﾉﾌｨｼｽ・ﾉﾙｳﾞｴｼｶが出現しています。

(担当:海洋環境グループ 宮園 章, 有馬大地)